

《平成 11 年度前期の浮魚類の漁況予測》

平成 11 年 3 月に、東シナ海から日本海にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ）の長期漁況予報会議が開かれました。今月はこれをもとに、平成 11 年度前期（4 月～9 月）の長期的な漁況の予測をします。

マアジ資源減少か？！

大中小型まき網による東シナ海から日本海南西部海域におけるマアジ漁獲量(図1)は、昭和 55 年を以降増加傾向にありましたが、平成 7 年に大きく減少しています。平成 8 年、平成 9 年はやや増加の兆しを見せたものの、平成 10 年は再び減少に転じてお

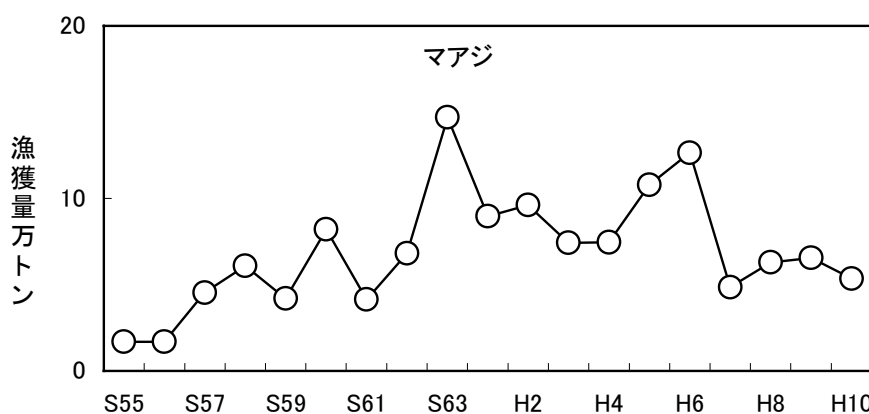


図1 大中小型まき網による東シナ海～日本海西部におけるマアジ漁獲量

り、資源の状態は横ばい傾向にあるといえます。平成 10 年 10 月～平成 11 年 2 月までの東シナ海を主漁場とする大中小型まき網の漁獲量（8,000 トン）は、前年同期（12,000 トン）よりやや減少しています。漁獲物の銘柄は、前年同期が当歳魚主体（72%）であったものが、今期は当歳魚の割合が減少（14%）し、1 歳魚の割合が増加（68%）しています。また、九州～山陰までの沿岸域における昨年秋以降の漁獲量は各地で伸び悩み、前年同期を大きく下回っています。これは主漁獲対象である当歳魚の加入量が少なかったことが大きな要因であると思われる。

今後のマアジ漁獲量は、当歳魚の加入量減が影響し、前年をやや下回ると考えられます。

マサバ資源減少か？！

島根県～青森県にかけてのマサバ漁獲量（図2）は、平成 6 年以降、減少傾向にあります。

一方、東シナ海の大中小型まき網による平成 10 年 10 月～平成 11 年 2 月までのマサバ漁獲量は、日韓新漁業協定の事情から主漁場であるバーレン沖、および済州島西海域での操業が

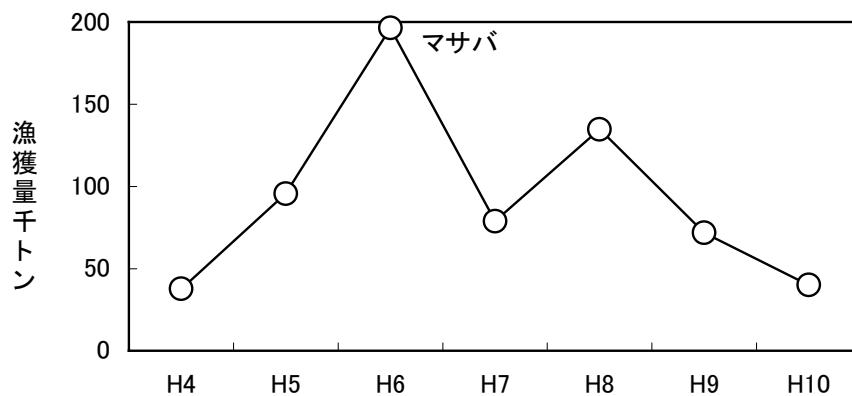


図2 島根～青森におけるマサバ漁獲量

できなかったことから、前年同期の 67%にとどまりました。漁獲物の銘柄組成は当歳魚の割合が前年同期に比べ大幅に減少したことから、今期の漁獲は前年、平年を下回ると考えています。

マイワシ資源依然低迷！漁期遅れる？！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向にあります。中羽～大羽マイワシの漁獲量は年々減少しており、0～1歳魚の漁獲量も伸び悩んでいます。

また平成11年3月に、西海区水産研究所が実施した九州南西海域における卵稚仔調査の結果、マイワシの卵、

仔魚の出現が全く見られなかったことから、依然としてマイワシ資源は低水準にあると思われます。

ところで、マアジ、マサバ、マイワシといった浮魚類は、数十年周期での大きな変動を繰り返し、それぞれの時期において卓越する魚種が存在することが知られています。最近では、昭和初期～昭和20年代後半と昭和50年代後半～平成初期にマイワシが卓越している時期があります。ちなみに、昭和30年代にはマアジ・カタクチイワシが卓越種となっています。現在、マイワシ資源は減少～低迷期で、マアジおよびカタクチイワシが卓越種だと考えられており、昭和30年代と良く似た魚種組成となっています。昭和30年代のマイワシの漁獲傾向を見ると、4～6月に漁獲のピークが見られ、平成10年と同じようなパターンを示しています。魚種組成のみで結論づけることはできませんが、仮に昭和30年代の低迷期と現在が同じパターンを示すならば、漁獲時期がやや遅れて、5月頃までは漁獲があると考えられます。

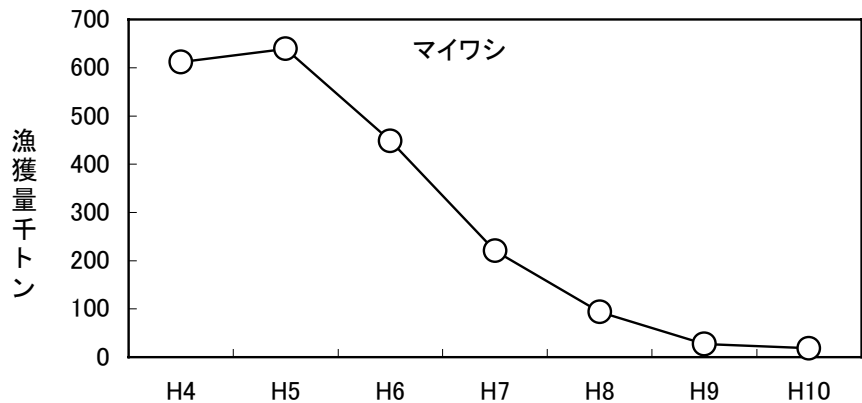


図3 島根～青森におけるマイワシ漁獲量

カタクチイワシ資源良好！

島根県から青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にあります。また、平成11年3月に西海区水産研究所が実施した九州南西海域における卵稚仔調査の結果、仔魚の出現密度は前年同期を下回ったものの、卵の密度は前年同期を上回っており、資源状態は前年並みであると

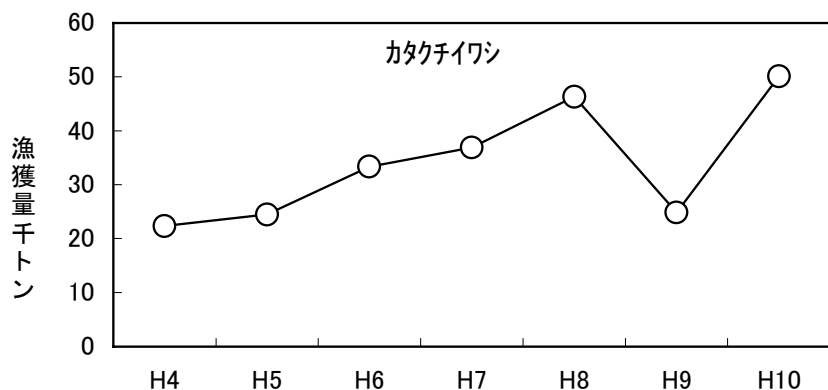


図4 島根～青森におけるカタクチイワシ漁獲量

と考えられます。島根県沖の漁獲時期は冬期にピークが見られることから、今年9月までは、まとまった漁獲は見られないものの、冬期を中心として活発な漁場が形成されるのではないかと期待しています。

《 3月の海況 》

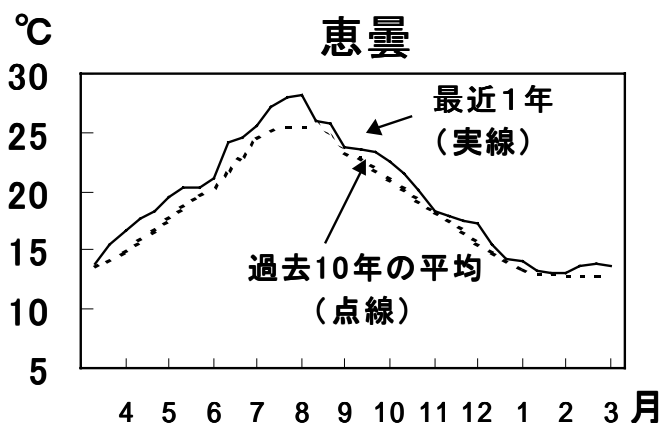
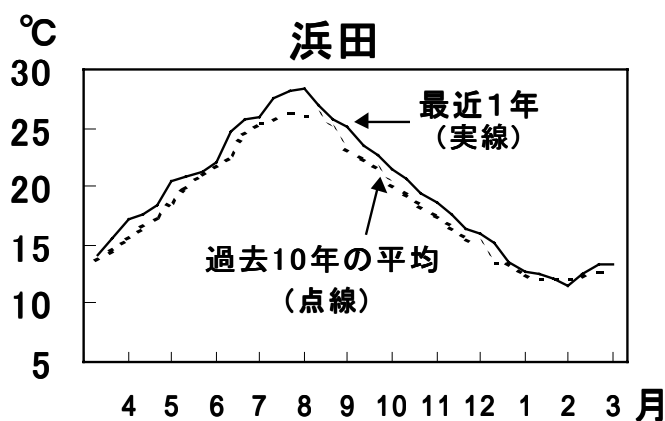
定地水温

3月	月平均	平年差	評価
浜田	13.1	+0.4	やや高め
恵曇	13.7	+0.8	はなはだ高め

定地水温は、前月に比べ浜田で1.1、恵曇で0.6上昇し、浜田では平年より「やや高め」、恵曇では平年より「はなはだ高め」となりました。特に恵曇では例年になく高水温となっていました。

また、島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果（3月下旬～4月上旬）によると、山口県～島根県西部沿岸海域では平年に比べ「やや高め」、島根県東部～鳥取県沿岸海域では「平年並み」の水温となっていました。

また、島根県沖には隠岐諸島北北東40マイルおよび日御碕沖北西50マイルに冷水域が、隠岐諸島北方40マイルには暖水域が発達し、冷水域と暖水域が入り交じった非常に複雑な海況となっています。



《 3月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は3,185トンで、前年の117%、平年の43%と、前年をやや上回りました。水揚金額も前年の134%と好調に推移しました。漁獲の主体はカタクチイワシ、マイワシ、マサバでした。また、恵曇ではカタクチイワシ、マイワシを主体に1,136トンの漁獲がありましたが、前年の58%にとどまりました。浦郷でもカタクチイワシ主体に3,769トンの漁獲があり、前年並み（98%）の漁獲となりました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲箱数は、スルメイカ（25～30入り主体）を中心に2,324箱の漁獲があり、前年の77%とやや低調に推移しました。一方、浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカ（20～25入り主体）中心に21,042箱の漁獲があり、前年の126%と好調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量は約33トンで、前年の285%と非常に高い水準で推移しています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は322トン、水揚金額は1億2,700万円でした。また、1統当たり漁獲量は53.6トン、水揚金額は2,120万円で、量は平年並みでしたが、金額は平年を7%下回っています。魚種別に見ると、キダイ、ニギス、ケンサキイカ、ソウハチが好調に推移し、平年の3.7～1.6倍の水揚げがありました。

恵曇港の総漁獲量は161トン、水揚金額は1億1,400万円で、量は平年並みでしたが、金額は平年を7%上回っています。アカガレイ、ソウハチ主体の漁で全体の8割を占めました。特にソウハチは、平年の2.3倍の水揚げがありました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における1航海当たり漁獲量(655kg)・水揚金額(28万円)は前年をわずかに上回っています。沖合を操業している船が多いため、ソウハチ、アンコウ、ニギスでまとまった漁が見られました。

大田市漁協における1航海当たり漁獲量(前年比：85%)・水揚金額(前年比：97%)は前年を下回っています。ソウハチ、ニギス主体の漁で、全体の60%を占めています。また、前漁期不漁であったハタハタの漁獲量(21.3t)が急増し、今月だけで前漁期の75%を水揚げしました。

【定置網漁業】

県西部と東部では依然として低調な漁模様が続き、特に浜田では前月に引き続いて漁獲量、水揚金額とも平成3年以降最低の水準となっています。漁獲の主体は西部ではマダイ・ヤリイカ、東部ではマアジ・マダイで、前月東部で多獲されたカタクチイワシは急減しました。一方、隠岐地区では前月の漁獲量からは半減したものの依然としてスルメイカを主体に好調な漁況が続いています。また、3月は各地でマダイの漁獲量が増加したことが目立ちました。

【釣・縄】

出漁日数はほぼ平年並みとなっていますが、漁獲量・漁獲金額ともに前年を上回り、沿岸の釣はやや好調に推移しました。浜田はブリ類、アマダイ、スルメイカ主体で、漁獲量は24.8ト、水揚げ金額は2,800万円で量・金額ともに前年を約40%上回りました。五十猛はカサゴ類、アマダイ、マダイ主体で漁獲量は9ト、水揚げ金額は940万円と、量はほぼ前年並みだったものの、金額は20%上回りました。両地区とも、特にブリ類、アマダイ、マダイの漁獲量が前年を大きく上回っています。

漁獲統計

平成 11年3月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	58	カタクチイワシ・マイワシ・マサバ	55ト	3,186ト
	恵曇	31	カタクチイワシ・マイワシ	36.6ト	1,135.6ト
	浦郷	65	カタクチイワシ	58ト	3,769ト
イカ釣り	浜田(沖合)	188	スルメイカ	112箱	21,042箱
	浜田(沿岸)	97	スルメイカ	24箱	2,324箱
	西郷	179	スルメイカ	185kg	33ト
沖底	浜田	30	ソウハチ・ケンサキイカ	10.7ト	321.6ト
	恵曇	35	アカガレイ・ソウハチ	4.6ト	160.6ト
小底	和江	480	ソウハチ	655kg	314ト
	大田市	280	ソウハチ・ニギス	676kg	189ト
定置網	浜田	36	マダイ・ヤリイカ・ブリ	76kg	2.7ト
	恵曇	16	マアジ・マダイ	189kg	3.0ト
	浦郷	22	スルメイカ・マアジ・マダイ	1,938kg	42.6ト
釣・縄	浜田	912	ブリ類・アマダイ・スルメイカ	27kg	24.8ト
	五十猛	402	カサゴ類・アマダイ・マダイ	22kg	9.0ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。